

11 月度土曜例会 (2015/11/21)

Why are Filipinos good at English?

フィリピン人が英語が得意なワケを楽しく説明

Jendell Kirong さん

米国のある会社が 2012 年に行った調査によると、フィリピン人のビジネス英語運用能力は、調査した 78 か国の中でトップ。なんと米国人を上回った、といます。そんなフィリピン人の Jendell Kirong さんが「Why are Filipinos good at English?」と題して説明してくれました。講演というより、参加者が問題に答えた後、解説を加える方式。英語教師をしている Jendell さんのフィリピン人の友だち 2 人（ともに ALT）も応援参加してくれました。



クイズの前の頭の体操になった？ワニワニダンス。
右の女性 2 人が Jendell さんの友人



Jendell さんは、フィリピンのケソン市出身。国を代表する国立フィリピン大学で英文学、英語言語学などを専攻し、優等で卒業。TOEIC テストは満点の実力です。「English is my life and my bridge to the world」という考えのもと、英語教育にも大きな関心を持ち、日本人や韓国人に 10 年間も教えてきました。現在は茨木市の小学校や中学校で ALT (Assistant Language Teacher) として英語教育にたずさわっています。

Jendell さんは 1 年前にも IIN の例会でスピーチ。その時のワニワニダンスを覚えていた参加者から、本題に入る前に「Let's play wani-wani dance」の声がかかりました。

参加者全員が立ち上がって、「ワイニー、ワイニー、ワン」などと、手振り身振りを交えてフィリピン語の 1 (isa)、2 (darawa)、3 (tatlo) …を 10 まで暗唱。続いて日本のじゃんけんのような遊びも。学校で生徒たちに楽しみながら学ばせるための方

法ようですが、うまくついていけない人も多く、笑いが絶えませんでした。

閑話休題。

フィリピン人が英語に強い理由については、用意されたプリントの文章の空欄を埋める問題に答えながら解説。一部を紹介します。

———部分に正しい言葉を入れる問題。

1. Multi —— environment at home and at school

● We have more than 100 languages (a country of 7,107 islands)

答えは **lingual**、「言語の」という意味です。

Jendell さんによると、7000を超える島からなるフィリピンでは 100 を超える言語（単なる方言ではない）があり、かなりの家庭では父母が別の島の出身であるため、2 つの言語のほか、公式言語である英語とフィリピン語を合わせ 4 つの言葉が飛びかう環境にある、ということです。Jendell さんの家族も同様でした。

2. Same —— system

● the Filipino alphabet is patterned after the English alphabet

答えは **writing**。スペインの、次いでアメリカの植民地になったため、フィリピンでは、アルファベットは英語を基に作られました。英語は 26 文字、フィリピン語は 28 文字ですが、実質、ほとんど同じ。

現在では子供のころから本、歌、テレビ、映画、インターネットなどの media を通して英語に接している。映画などでは字幕や翻訳もついていないのが当たり前で、これも英語に強くなる理由の一つ。

この英語は good political middle ground になっている、ということです。

有力な言語を話す人たちの中には、それぞれの言葉にプライドがあるから、一つを選ぶことになると対立が起きますが、外から来た英語を共通語にすることで、政治的対立を和らげているようす

フィリピンでは、English is the medium of instruction. つまり、英語が教育・情報伝達のための媒体・手段になっている。



そのワケは、フィリピンを植民地にした米国が1900年ごろから Thomasites と呼ばれる多数の教師をフィリピンに送り込み、次々、学校を作って英語教育を推進しました。その前に、多くのスペイン語も入っており、外国語を聞くことに慣れていました。



クイズ正解者には“豪華”賞品のキャンディーが

また、当時のフィリピンでは、数学、科学、社会科学、経済などの用語が乏しく、英語をそのまま受け入れるほうが手っ取り早かった。今では就学前の子供から英語を学んでいる。その点、日本は早く近代化したため、洗練された自前の翻訳語を豊富に生み出してきた、と Jendell さんは説明しています。

また、English is a gateway to economic opportunities で、海外で働くなど就職のチャンスが増える。同時に、English is the language of the elite (prestige status) ということです。

要するに、フィリピン人が英語に強い理由は、そうなる環境がそろっているから、と言えそうですが、英語教育の姿勢は、日本とは厳しさが違います。

8 番目の問題

English-only—and campaigns at school の——の答えは、policy、program、あるいは project。

つまり、英語を使う授業では、English-only を徹底、小学校などでは他の言語を使うと“罰金”をかけられるほどです。後で、自国語で説明してくれると思うと集中力にかけるから、という考えのようです。

問題の答えにぴったりの単語は、むずかしいものが多かったのですが、さすが、姉妹都市活動室のメンバーたち。誰かが次々、正解を出しました。

最後に Fun with Janglish/Engrish

Janglish は Japanese English (和製英語) で、以下の 10 問題が出されました。(正解は下に)。

1. dump car: d—— t——
2. jet coaster: r—— c——
3. magic tape: V——

- 4 hotchkiss: s _____
5. sharp pencil: m_____ p_____
6. Viking: b_____
7. one piece: d_____
8. salaryman: o_____ w_____
9. mug cup: m_____
10. service: f_____

答: 1.dump truck 2.roller coaster 3.Velcro 4.staipler 5.mechanical pencil
6.buffer 7.dress 8.office
worker 9.mug 10.free

なお、Engrish は日本語に L
と R の区別がないことから誤用
されている言葉のこと。

この後、グループに分かれ、
Jendell さんと、友人のアヤさん、
キャサリンさんを囲んで英語上
達の方法などについて話し合い
ました。



クイズの後はゲストを囲んでトーク